

目指す学校像	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子を育成する学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～		
重点目標	1 一人ひとりの Well-Being を保障する学校をつくる。 2 地域とともにある学校を実現する。 3 安全で清潔な学校をつくる。 4 自分で考える、自分で決める活動を意図的に取り入れ、「真の学力」を育成する。 5 ワークライフバランスを整え、一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学校自己評価							学校運営協議会による評価
年度目標				年度評価			実施日令和7年2月6日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国・学力学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。 ○様々な要因によりストレスを抱えている児童がいる。 <課題> ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に相談・支援していく体制を継続していく必要がある。 ○決められたことには取り組むが、自らのアイデアを表現したり、自ら計画を立てて取り組んだりすることに消極的な児童がみられる。	・主体的に活動する児童の育成 ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談にかかる組織的な対応の充実	1 児童のよさに着目する「努力を認め励ます」教育を推進する。 2 成功のなぜを問い、失敗の次を聞く指導を徹底する。 3 委員会活動を中心に、自らのアイデアを実現する機会をもつ。	1 学校評価「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的評価を維持できたか（R5:87%） 2 委員会活動において、自らのアイデアによるキャンペーンを実施できたか。	1 学校評価「自分にはよいところがあると思う」の児童の肯定的評価は 87% となり、肯定的評価が維持された。 2 自らのアイデアによるキャンペーン・イベント活動を 11 のうち 7 つの委員会で実施した。	B	・「良いところを見つけ伸ばしてくれる」と回答した保護者が 91%、児童が 89.3%である。適切な課題を与え、努力し乗り越える喜びや、自らの思いを形にする喜びを味わわせられるようさらに努力する。
2	<現状> ○学校運営協議会で、地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標に向かってできることをアクションプランにまとめた。 <課題> ○コロナ禍を経て、地域の方を授業に招く実践が減少した。 ○地域の一員として、地域や社会をよりよくするために何かしたいという意欲を育む必要がある。	・浦和大里地区の子どもたちの健全育成 ・目指す子供像を家庭や地域と共有するための教育活動の充実	1 学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場をつくる。 2 地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標にむかってできることをまとめたアクションプランに基づき、進捗状況や成果などを話し合う。	1 学校運営協議会に児童が参加し意見を述べることができたか。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の 5～6 年児童の肯定的評価の向上。（R5:77%）	1 第 2 回学校運営協議会に児童が参加し取組を発表した。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の 5～6 年生の肯定的評価が、83. 9%と大幅に向上した。	A	・自ら環境に働きかけることにより、居心地の良い学校になることを理解した児童が増えてきた。児童会活動を核にし、児童が学校づくりに参画する仕組みを維持する。
3	<現状> ○予算委員会を実施し、目的を明確にした購入計画を立て、計画的に予算を執行している。 ○数年間使用していない物品が校内に点在している。 <課題> ○落ち着いた環境づくりのため、教職員による施設設備の安全点検や整理整頓を確実に行うとともに、児童自らが生活環境を整え、安全意識を高める力を育む必要がある。	・教育環境の整備 ・安全に生活しようとする児童の育成	1 不要なものの廃棄を積極的に行い、整理整頓する。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵は、事務担当や業務担当と連携をとり、未対応を 0 とする。	1 職員室や教材室を誰もが検索しやすい状態にできたか。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵に対し 1 週間以内に対応できたか。	1 職員室ロッカーの大規模整理により、個人情報の管理を適切に行えるようにした。教材室の不用品を廃棄できた。 2 安全点検等で判明した瑕疵はその日のうちに対応を始めることができた。	A	・使用頻度がほぼない古いものの廃棄を引き続き行う。 ・教育課程を見通した予算会議を行い、児童の教育活動に直結するものから計画的に購入していく。
4	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習意欲・学力ともに個人差が大きい。 <課題> ○ICT 活用状況のデータ等を用い、学力の現状をとらえ、個別の支援を講じるとともに、自らが、自分の課題を見出せるよう支援する必要がある。 ○学んできたことを生活に生かすことができることを実感できるよう、教員の働きかけが必要である。	・真の学力の育成 ・学び続ける児童の育成	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善を研究する。 2 全教員が、学習の質的向上を目指し、年 3 回以上の公開授業を、G I G A 端末の活用を必須として実施する。	1 学校評価「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業により、確かな学力ややり抜く力を育んでいる」の職員の肯定的評価が向上したか。（R5:79%） 2 年 3 回の公開授業を GIGA 端末を効果的に活用して実施したか。	1 学校評価「（前略）確かな学力ややり抜く力を育んでいる」の職員の肯定的評価が 91.7%となり、大幅に向上した。 2 すべての教員が年 3 回の公開授業を GIGA 端末を活用して実施した。	A	・自ら調整しながら主体的に学ぶ力を高めるため引き続き実践的な研修を行っていく。 ・書くこと、読むことがおろそかにならないように家庭学習を含めて取り組みを充実していく。
5	<現状> ○時間外在校時間の平均は 36 時間程度である。 ○教職経験年数の平均が 4.4 年である。 <課題> ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が増える時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。	・生き生きと働き続ける教職員集団づくり	1 時数を整理し、学期初めの 4 時間授業、学期終わりの放課後フリーを実現し、事務作業を行う時間を確保する。 2 専科を学年の副担任として配置し、児童を多くの目でみたり、協働したりしやすい状況をつくる。 3 年休の計画的な利用を促進するため、個人申告による年休取得計画をたてる。	1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間をとることができる」の職員の肯定的評価が向上したか（R5:73.7%） 2 学校評価「職場で教職員が協働し合う体制が整っていると感じますか」の職員の肯定的評価が向上したか（R5 教員等の勤務に関する意識調査 75%）	1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間をとることができる」の職員の肯定的評価が 86.8%と大幅に上昇した 2 学校評価「職場で教職員が協働し合う体制が整っていると感じますか」の職員の肯定的評価が 97.3%となり、大幅に向上した。	A	・今年度の取組の成果が出たため、行事計画の綿密な立案により、学期初めの 4 時間授業、放課後フリーを継続するとともに、業務の平準化を進めていく。 ・副担任制と、研修のグループ化が成果を上げた要因と感じている。引き続き職員が協働し合う職場づくりを進めていく。

・先生が子どもの良いところをよく褒めてくれていることが保護者にも伝わっている。何かあったときの対応も素早く、共有もしてくれるので安心である。
・不登校児童に様々対応しているが問題が複雑で難しい問題であると感じる。地域でもみていきたい。

・教育活動に、保護者や地域が関わる仕組みとしてボランティアがとても良い取組である。くり返し募集をかけ、学校応援団を増やしてほしい。
・子どもが「地域や社会をよくするために何かした」と考えるようになったことがよかった。引き続き学校がハブとなって、学校、家庭、地域をつなげてほしい。

・古いものを整理・廃棄して利用しやすい教材室、倉庫にする取組がよい。保護者もぜひ一緒に活動したい。
・木の伐採や土管山の修繕など学校が自由に使えるお金があまりないことを知った。スクールファンドはもっと宣伝したほうが良い。

・授業が充実している。タブレットも使いこなしている。教科担任は専門性が発揮できてよい。
・個別最適な学びは、自分に合った学びとして学年を超えて学べるのでよい。
・家庭学習も含め、学び方をしっかり指導してほしい。保護者も一緒に学べるとよい。

・ワークライフバランスの配慮、協働し合う体制づくりともに教員の満足度が向上し、すばらしい。教員が元気でないとい教育はできない。
・学校全体の雰囲気がとてもよくなった。
・教員が増えるといい。

学 校 教 育 目 標	夢と希望をもち、人間性豊かで心身ともにたくましい子の育成 ～かしこく やさしく たくましく～
目 指 す 学 校 像	共に高め合う学校 よさを認め合う学校 安全で美しい学校 ～認め合い・学び合い・共に育つ～
重 点 目 標	1 主体性、粘り強さを重点としたカリキュラムマネジメントで「真の学力」を育成する。 2 児童のSOSの早期覚知と保護者との連携強化で、一人ひとりのWell-Beingを保障する学校をつくる。 3 ICTを活用した積極的な情報発信と、地域の教育力の活用により、地域と共にある学校をつくる。 4 目的を明確に計画的に学校予算を執行し、安全で清潔な学校をつくる。 5 ワークライフバランスを整え、一人ひとりが自らの力を発揮し、伸ばしあう教職員集団をつくる

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
学 び の 質 の 向 上 に 関 する 取 組	1 ＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習意欲・学力ともに個人差が大きい。 ＜課題＞ ○子ども自らが、課題を見出し、主体的に取り組むことができるよう支援する必要がある。 ○「学んだことが生活に生かせる」と実感できるよう、教員の働きかけが必要である。	・真の学力の育成	1 目指す児童像を、教育課程を通して実現するため「カリマネ検討会」を年3回以上実施する。 2 全教員が、学習の質的向上を目指し、年3回以上の公開授業を、GIGA端末の活用を必須として実施する。	1 学校評価「教育課程を通して目指す児童像の実現を図っている」の教員の肯定的評価80%以上。 2 年3回の公開授業をGIGA端末を効果的に活用して実施したか。					
		・学び続ける児童の育成	1 課題の解決に向けて自分で考え、取り組む授業を通して学び方の指導を進める。 2 総合的な学習の時間を核として、学びを生かして活動する場面を充実させる。	1 学校評価「課題の解決に向けて自分で考え、取り組んでいたか」の5年生以上の肯定的な回答の向上（R6:84%） 2 学習の振り返りで自分の成長の気づきや今後さらに追及したいこと等への記述が増えたか。					
心 の サ ポ ー ト に 関 する 取 組	2 ＜現状＞ ○全国・学力学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。 ○様々な要因によりストレスを抱えるなどし、欠席が30日以上の子が複数いる。 ＜課題＞ ○児童一人ひとりの状況を把握し、適切なタイミングで組織的に相談・支援していく体制を継続していく必要がある。 ○決められたことに取り組むだけでなく、身の回りの環境を自らの手で変えていこうとする意欲を向上させる必要がある。	・主体的に活動する児童の育成	1 児童のよさに着目する「努力を認め励ます」教育を推進する。 2 成功のなぜを問い、失敗の次を聞く指導を徹底する。 3 委員会活動を中心に、自らのアイデアを実現する機会をもつ。	1 学校評価「先生はあなたのがんばったことや良いところを褒めたり励ましたりしてくれる」の「そう思う」と回答する児童の増（R6:53.2%） 2 委員会活動において自らのアイデアによるキャンペーンを実施できたか。					
		・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談にかかる組織的な対応の充実	1 児童のSOSを見逃さないため、スクールダッシュボードを複数の教員で確認し対応する。 2 落ち着いた環境で安心して学べるSolaルームの環境を整える。 3 生徒指導・教育相談部会で情報共有と対応策を検討する。	1 スクールダッシュボードを毎日複数の教員で確認できたか。 2 Solaルームの環境を整え、利用方法を周知したか。 3 生徒指導・教育相談部会を定期的に開催したか。					
学 校 づ く り に 関 する 取 組	3 ＜現状＞ ○学校運営協議会で、地域、家庭、学校、児童それぞれが、学校教育目標に向かってできることをアクションプランにまとめた。 ＜課題＞ ○コロナ禍を経て、地域の方を授業に招く実践が減少した。 ○地域の一員として、地域や社会をよりよくするために何かしたいという意欲を育む必要がある。	・浦和大里地区の子どもたちの健全育成	1 学校運営協議会に児童が参加し、意見を述べる場をつくる。 2 地域、家庭、学校、児童が学校教育目標の実現にむけた取組「アクションプラン」に基づき、進捗状況や成果などを話し合う。	1 学校運営協議会に児童が参加し意見を述べるのができたか。 2 学校評価「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の5～6年児童の「そう思う」の回答の増。（R6:42.2%）					
		・目指す子供像を家庭や地域と共有するための教育活動の充実	1 「学校ボランティア」の充実。 2 総合的な学習の時間で、地域をフィールドとした教育活動を実施する。 3 学校ホームページを週3回以上更新する。	1 学校評価「地域教育資源の活用」の教職員「そう思う」回答の増（R6:22%） 2 学校ホームページを週3回以上更新できたか。					
教 育 環 境 の 整 備 に 関 する 取 組	4 ＜現状＞ ○予算委員会を実施し、目的を明確にした購入計画を立て、計画的に予算を執行している。 ○使用していない物品が校内に点在している。 ＜課題＞ ○落ち着いた環境づくりのため、教職員による施設設備の安全点検や整理整頓を確実に行うとともに、児童自らが生活環境を整え、安全意識を高める力を育む必要がある。	・教育環境の整備	1 教育課程を意識した予算の執行。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵は、事務担当や業務担当と連携をとり、未対応を0とする。	1 12月末予算執行率70%以上。 2 安全点検や校内巡視で判明した瑕疵に対し1週間以内に対応できたか。 3 レガシースペースの設置					
		・安全に生活しようとする児童の育成	1 整備された空間を維持するために清掃の仕方を身につけさせる。 2 安全に関する内容を特別活動の年間計画に組み込み、自分事として考える授業を実施する。	1 日常の清掃状況を把握し、美しい生活環境が維持できたか。 2 学校評価「安全に気を付けて生活している」の児童の「そう思う」評価の向上（R6:68.4%）					
教 職 員 の キ ャ リ ア 形 成 に 関 する 取 組	5 ＜現状＞ ○時間外在校時間の平均は34時間程度である。 ○教職経験年数の平均が4.6年である。 ＜課題＞ ○年度当初や学期初め、終わりなど、事務作業が激増する時期に時間をしっかり確保する必要がある。 ○悩みを気軽に相談したり協働したりできる人間関係づくりが必要である。	・生き生きと働き続ける教職員集団づくり	1 時数を整理し、学期初めの4時間授業、学期終わりの放課後フリーを実現し、事務作業を行う時間を確保する。 2 専科を学年の副担任として配置し、児童を多くの目でみたり、協働したりしやすい状況をつくる。	1 学校評価「ワークライフバランスの配慮がなされ、自らの資質を高める時間をとることができる」の職員の「そう思う」の回答の向上（R6:28.9%） 2 時間外勤務時間の削減（R6:33h50m）					
		・切磋琢磨し共に伸びる教職員集団づくり	1 少人数の研修グループをつくり、授業改善を核とした研修体制をつくる。 2 キャリアナビ、研修履歴を活用した研修奨励を行い、授業参観、職員室の様子から進捗状況を確認する。	1 学校評価「校内研修の実施状況は適切である」の肯定的評価の向上（R6:75%） 2 学校評価「キャリアナビや研修履歴を活用し、自身の資質向上に努めている」の「そう思う」評価の向上。（R6:33.3%）					